



夕刊フジ×銀座セカンドライフ

定年起業への挑戦 85

「電話の声」というアナログなコミュニケーションを生かす

50歳以上の方のビジネスプランを審査させていただき、優れたアイデアにバックアップをお約束する「セカンドライフビジネスプランコンテスト2016」の優秀賞と夕刊フジ賞をダブルで受賞したのはコミュニケーションパートナー株式会社（代表取締役 岡田喜美子）の「朝の対話による見守りサービス」です。

一人暮らしの高齢者をサポートするサービスで、高齢者の住む地域まで配慮した担当者が平日午前7時から10時の間に電話をかけて、「昨夜はよく眠れましたか？」などの対話を行います。担当者は声の調子などで高齢者の体調を推測し、場合によっては家族に連絡をとったりします。

「デジタルツールでの見守りサービスはたくさんありますが、大切なのは血の通った対話をする事、そして声の調子で高齢者の様子をうかがえることです（岡田氏）」

選考委員からは、同社のビジネスプランは、独居老人問題の解決に資する上、あえてアナログな対話を行うことで大手の見守りサービスとの大きな差別化ポイントができているという評価の声が相次ぎ、優秀賞また夕刊フジ読者にとっても、興味の高い事業であるといことで夕刊フジ賞を受賞しました。



経済・マネー

経済ニュース | 株式・投資 | プレスリリース | ニュース一覧 | フォト一覧 | 連載一覧

ホーム > 経済・マネー > 経済ニュース > ニュース詳細



シニアならではの 血の通ったアナログサービス

2016.03.29

連載: 夕刊フジ×銀座セカンドライフ 定年起業への挑戦

ツイート

おすすめ 1

G+ 0



50歳以上の方のビジネスプランを審査させていただき、優れたアイデアにバックアップをお約束する「セカンドライフビジネスプランコンテスト2016」の優秀賞と夕刊フジ賞をダブルで受賞したのは、コミュニケーションパートナー株式会社(代表取締役・岡田喜美子さん)の「朝の対話による見守りサービス」です。



岡田喜美子さん(左)と片桐実央氏【拡大】

ひとり暮らしの高齢者をサポートするサービスで、高齢者の住む地域まで配慮した担当者が平日午前7時から10時の間に電話をかけて、「昨夜はよく眠れましたか？」などの対話を行います。担当者は声の調子などで高齢者の体調を推測し、場合によっては家族に連絡をとったりします。

「デジタルツールでの見守りサービスはたくさんありますが、大切なのは血の通った対話をする事、そして声の調子で高齢者の様子をうかがえることです」(岡田さん)

弊社の受賞を伝える夕刊フジの「zakzak」にて紹介されております。

<http://www.zakzak.co.jp/economy/ecn-news/news/20160329/ecn1603290830004-n1.htm>